

# ◎ 河北新報の伝承・啓発プロジェクト

- ① **むすび塾**
  - ・ 2012年開始の巡回ワークショップ
  - ・ 月1回で通算69回、月命日に詳報
  - ・ 反省基に「呼び掛け」→「働き掛け」
  - ・ 地方紙共催で全国へ展開、継続
  - ・ 時間経過により、さらに意義増す
- ② **みやぎ防災・減災円卓会議**
  - ・ 産学官民、報道機関の連携組織
  - ・ 2015年発足、81団体160人
  - ・ 月1回例会、河北が事務局
  - ・ 拠点組織立ち上げなどアピール
  - ・ 新聞社のコーディネート機能発揮









## ◎ 次世代塾の「趣意書」

東日本大震災の風化を防ぎ、震災教訓の伝承と防災啓発の発信をこの先10年、20年と継続していくためには、**次世代への働き掛け、若者の主体的な関わりが欠かせない。**被災地の知見に基づいて、震災教訓の伝承、防災啓発の先頭に立つ若者を継続的に育成することは、被災地にとって必須の課題であり、南海トラフ巨大地震などに備える全国、世界の要請にも応えるテーマである。

**教訓伝承と啓発に責務を負う報道機関、大学、自治体と、啓発推進に関わる関係団体が協力し、被災地仙台で学ぶ生を主な対象とした講座を開設・運営することにより、震災伝承と防災啓発のために動く「伝える」「備える」の担い手人材を育て、被災地をはじめとした地元宮城、東北、さらには全国、世界に向けて、継続的に送り出すことを目指す。**





## ◎ 次世代塾の基本設計

- 開催地 東北福祉大仙台駅東口キャンパス  
(ほか被災地視察先)
- 開催日時 4月開講 / 3月修了の年間講座  
毎月第3土曜日の午前を基本に開講
- 対象 大学生中心に10代後半から20代前半まで
- 規模 30人募集 (50人程度まで対応)
- カリキュラム 年間15コマ
- 監修 今村文彦東北大災害科学国際研究所所長  
舩渡忠男東北福祉大防災士協議会会長
- 受講料 基本無料 (視察などで実費負担の場合あり)
- 修了認定 協議会会長名で「修了証」を交付  
(2年修了もあり)
- その他 内容と受講生の感想を河北新報紙面で詳報  
修了者名簿「次世代塾バンク」を作り、継続交流



## ◎運営の枠組み

### ◎名称

**3 1 1 次世代塾推進協議会**（会長・一力雅彦社長）

### ◎構成団体

河北新報社、東北福祉大、仙台市（三者協定当事者）

東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大

宮城学院女子大、尚絅学院大（協力大学）

学都仙台コンソーシアム（連携団体）

日本損害保険協会、みちのく創生支援機構（協賛団体）

### ◎運営

任意組織として、河北新報社が責任主体となり、費用負担などの主軸になる三者協定当事者との調整、協力・連携する構成団体との協議を経て、運営に当たることとする。

詳細は「運営委員会」（構成団体実務担当者の会議）を適宜開催し、決定していく。





# 311 伝える／備える 次世代塾 受講生内訳

2017年8月3日

## 【2017年度 受講生： 114 名】

【男女別】	人数	割合
男性	39	34.2%
女性	75	65.8%
<b>合計</b>	<b>114</b>	<b>100.0%</b>

【地域別】	人数	割合
宮城県内	102	89.5%
隣県（岩手・山形・福島）	6	5.3%
青森、秋田、他県	4	3.5%
その他（途中留学など）	2	1.8%
<b>合計</b>	<b>114</b>	<b>100.0%</b>

【職業別】	人数	割合
学生	87	76.3%
大学生	79	69.3%
大学生メンター	7	6.1%
大学院生	1	0.9%
社会人	27	23.7%
河北新報社	10	8.8%
その他法人、団体	17	14.9%
<b>合計</b>	<b>114</b>	<b>100.0%</b>

【学年内訳】	人数	割合
1年	1	0.9%
2年	25	21.9%
3年	36	31.6%
4年	24	21.1%
大学院生	1	0.9%
社会人	27	23.7%
<b>合計</b>	<b>114</b>	<b>100.0%</b>

※大学生メンター：受講生と運営スタッフの両方を担う。

【大学内訳】	人数	割合
東北福祉大学	48	55.2%
宮城教育大学	13	14.9%
尚絅学院大学	9	10.3%
東北大学	4	4.6%
宮城学院女子大学	3	3.4%
東北工業大学	3	3.4%
東北学院大学	1	1.1%
東北医科薬科大学	1	1.1%
石巻専修大学	1	1.1%
山形大学	1	1.1%
慶應義塾大学	1	1.1%
上智大学	1	1.1%
東海大学	1	1.1%
<b>合計</b>	<b>87</b>	<b>100.0%</b>

【社会人の主な勤務先】※順不同
総務省 東北管区行政評価局
日本損害保険協会
宮城県 職員
石巻市 職員
東松島市 職員
東北電力
アイリスオーヤマ
南東北福山通運
河北新報社
尚絅学院大学 職員
福島大学 職員
他

## 311「伝える／備える」次世代塾 日程案

フェーズと テーマ	回	開催日	内容	講演内容	
				①	②
<b>プロローグ</b>					
オリエン テーション	1	4月15日	趣旨説明 / グループ編成 / グループ討議「自分にとっての震災」		
<b>発生直後</b>					
向き合う 【いのち】	2	5月20日	犠牲の現場 (※1) ■石巻市方面視察	遺体収容・葬送の実相	弔い 被災地住職の証言
	3	6月17日	捜索と救命	行方不明者捜索の現場	救急救命の最前線
	4	7月15日	避難の明暗④	犠牲回避の現場	犠牲多数の現場
	5	8月5日	避難の明暗⑤	防災訓練生きた事業所	高齢者施設の悲劇
考える	6	8月19日	メカニズム / 被災総括とがれき処理 / 津波訴訟総括		
<b>復旧期</b>					
向き合う 【つながり】	7	9月2日	避難所の苦闘	混乱の現場	女性の視点
	8	9月16日	ボランティアの力	復旧段階 がれき撤去の勝手連	復興段階 息長く地域づくり
	9	10月14日	遺族その後 (※1) ■石巻市方面視察	悲嘆ケアの取り組み	語り部活動
考える	10	11月18日	通信と安否確認 / 要援護者支援の課題 / インフラの復旧・復興		
<b>復興期</b>					
向き合う 【くらし】	11	12月16日	生活再建	仮設住宅の暮らし	二重ローンと住宅再建
	12	1月20日	なりわい再生 (※1) ■東松島、石巻市方面視察	漁業者の復興	企業の再建
	13	2月3日	子どもの未来	学習支援	遺児に寄り添う
考える	14	2月17日	災害法制 の課題 / 保険を中心とした民間の支援の仕組み / 防災教育の現状と未来		
<b>エピローグ</b>					
総括	15	3月17日	グループ発表・講評 / 修了認定証交付		
【備考】					
(※1) …現地視察予定日					
・9～11月に仙台市内各地で地域防災訓練があり、見学・体験するオプション講座も検討					